No.499(平成14年6月)
分類コード　05－10
熊　本　県　農　政　部

農 業 の 新 し い 技 術

カキ「太秋」の袋掛けによる汚損果防止技術

農業研究センター　果樹研究所　落葉果樹部
担当者：谷口　政弘

研究のねらい

カキ「太秋」は９月上旬頃から果皮表面にひびが入り、収穫前に条紋が発生しやすくなる。
そこが雨や露等でぬれた状態が長く続くようになると、黒い部分（汚損）が拡大して商品価値が低下する。
そのため、袋掛けによる果実汚損の防止技術を開発する。

研 究 の 成 果

○　袋掛けをすることにより、汚損果がほとんど発生しない。

○　ポリ袋と白色撥水紙袋（以下：撥水紙袋）を比較すると、撥水紙袋の方がポリ袋区より優れている。よって、撥水紙袋のような材質で、太秋に合った大きさの袋を選定する必要がある。

○　袋掛けの時期としては、条紋が入る前の９月までが適期である。ただし、労力面を考えるならば、果実が小さい方が掛けやすい。

○　袋掛けの際、着果部位の葉を摘葉した方が労力がかからず、手際よく袋掛けができる。

○　袋掛けを行うことにより、商品化率が向上するとともに、適期収穫が可能となり、出荷量及び品質の向上が図れる

普及上の留意点

○　袋掛けを実施する前は、病害虫を袋の中に包み込まないように、防除を徹底しておく。

○　袋を掛けるとカラスの被害に遭いやすいので、その対策を徹底しておく。

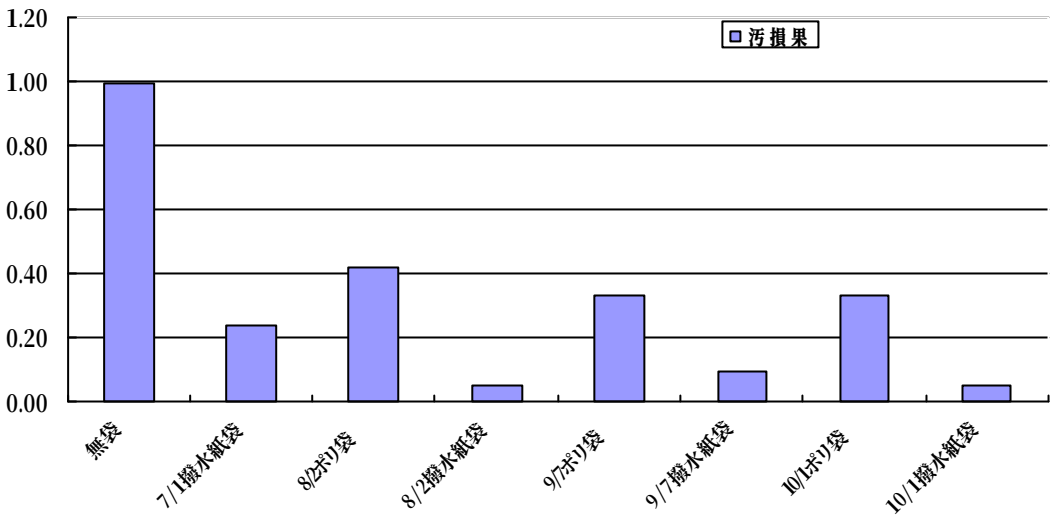

図 1　袋資材及び袋掛け時期と汚損程度

注）汚損の程度：無(0) 微(1) 軽(2) 中(3) 甚(4)

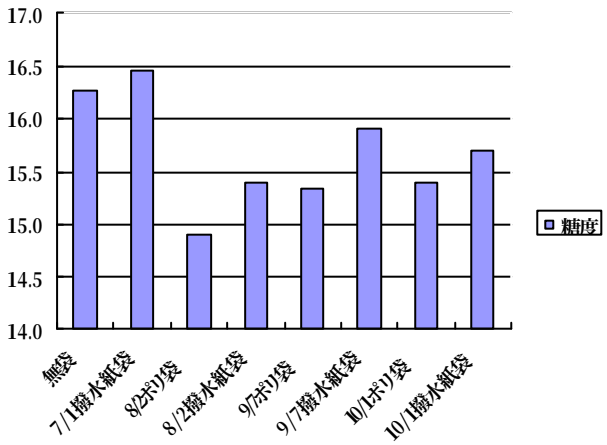

図 2　袋資材及び袋掛け時期と糖度

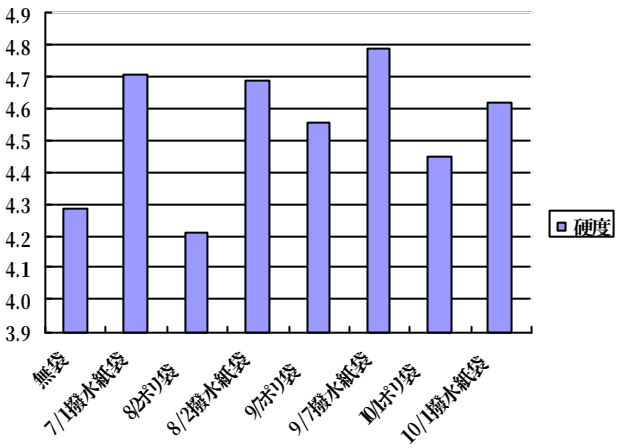

図 3　袋資材及び袋掛け時期と硬度

写真１　汚損果

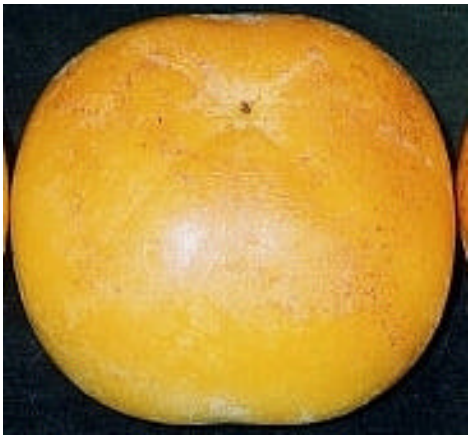

写真２　正常果